

隅田川



下町情緒と未来が交差する

奥秩父の甲武信ヶ岳を源とする荒川から分かれて東京湾にそそぐ隅田川。北区志茂の新岩淵水門付近から下流部分の全長約24kmの河川です。

平安時代の『伊勢物語』にも登場する隅田川ですが、かつて、吾妻橋から下流は大川、浅草川とも呼ばれていました。江戸時代からは花見や納涼などの名所としても知られ、広重や北斎など多くの絵師によって描かれてきました。

隅田川に架かる橋はそれぞれ姿が変化に富んでおり、その優れた構造と景観から「橋の博物館」とも呼ばれ、特に清洲橋、永代橋、勝鬨橋の3つの橋は国の重要文化財に指定されています。現在、白鬚橋から築地大橋までの12の橋では夜間ライトアップを実施しており、水と橋の光が創り出す美しい夜景夜景も見応えがあります。

防潮堤の全面には水辺を散策できるテラスを両岸に整備し、市街地の再開発などあわせて緩傾斜型堤防やスーパー堤防の整備も進めています。

隅田川上流

- スタート
JR常磐線、東京メトロ日比谷線、つくばエクスプレス「南千住駅」
- ゴール
東武伊勢崎線、東京メトロ銀座線、都営地下鉄浅草線「浅草駅」

距離：6.0km 歩数：約8,570歩
所要時間：約1時間30分
消費カロリー：約270kcal



④山谷堀・待乳山聖天

吉原へ向かう遊客を乗せた船が往来する山谷堀があった。広重の錦絵では、対岸に小高い丘の待乳山、その右下に山谷堀が描かれている。「名所江戸百景 真乳山山谷堀夜景」歌川広重(国立国会図書館)

⑤すみだリバーウォーク

東武線隅田川橋梁の真横に設置された歩道橋。橋の途中にガラス床があり、真下を通る船を間近に見ることができる。



①汐入公園(スーパー堤防白鬚西部地区)

紡績工場の跡地などを整備してきた公園。川沿いはスーパー堤防となっており開放感がある。かつては対岸にも紡績工場があり、このあたりは舟運を活用した紡績業の拠点だった。南側にある②瑞光橋公園は、舟運のための運河跡。



②瑞光橋公園

かつての運河の名残を伝える公園。水門の一部がモニュメントとして残されている。この運河は、南千住にある隅田川貨物駅まで掘り込まれており、隅田川の川運と鉄道を結びつけていた。

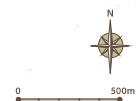


③橋場の渡し・白鬚橋

かつてこのあたりに平安時代から続く隅田川最古の渡しがあった。現在の白鬚橋は昭和6年(1931)完成で、白く塗装されたアーチが美しい。広重の錦絵には、この界隈で作られていた今宵の煙も描かれている。「名所江戸百景 墨田河橋場の渡かわら竈」歌川広重(国立国会図書館)

江戸時代に造られた庭園 四季折々の花が咲く

向島百花園



桜ざく春の隅田川

桜の時期には多くの屋形船が往来する



⑥蔵前橋・浅草御蔵跡

蔵前の名は幕府の米蔵「浅草御蔵」に由来。現在の防潮堤は蔵を想起させるなまご壁風の仕上げとなっている。

⑦隅田川火花

享保18年(1733)8代将軍徳川吉宗が、飢饉と疫病の犠牲者慰霊と悪疫退散を祈願した水神祭を隅田川で行った。この時に両国界隈の水茶屋があつた火花が、隅田川火花の始まりとされている。「名所江戸百景 両国火花」歌川広重(国立国会図書館)

⑧新大橋

広重の名所江戸百景の中でも傑作として名高く、ゴッホが同じ絵を描いたことでも有名。当時は左岸側に御船屋があつた。現在の橋は昭和51年(1976)完成。「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」歌川広重(国立国会図書館)

⑨永代橋(国の重要文化財)

関東大震災復興事業で大正15年(1926)に架けられた。架橋当時は下流に橋が架かっていなかったことから、隅田川河口の「帝都の門」として震災復興のシンボリック存在だった。

⑩勝鬨橋(国の重要文化財)

昭和15年(1940)に完成した可動橋。中央がVの字に開閉していたが、昭和45年(1970)以降開閉していない。

隅田川下流

- スタート
JR総武線、都営地下鉄大江戸線「両国駅」
- ゴール
東京メトロ日比谷線「築地駅」

距離：約8.0km 歩数：約11,430歩
所要時間：約2時間
消費カロリー：約360kcal



⑪両国リバーセンター

東京の水辺の新たな玄関口。水上バス待合所やホテル、カフェ等が入る。江戸東京博物館や両国国技館、旧安田庭園などの見どころスポットも近い。

⑫清洲橋(国の重要文化財) LYURO東京清澄

関東大震災復興事業で昭和3年(1928)に、ドイツのライン川にかかる「ケレンの吊橋」をモデルにして架けられた。左岸側にはウッドデッキのかわらわすが魅力のLYURO東京清澄がある。

テラスの夜間照明

夜も安心して歩ける水辺空間



⑬石川島公園

古くは「鬼平」と長谷川平蔵によって人足寄場が置かれた石川島。嘉永6年(1853)には水戸藩が造船所を開設、その後、民間の大規模な工場が発展した。島の周囲はスーパー堤防が整備され、開放的で憩いの空間となっている。

⑭佃島

徳川家康が、大阪の佃から漁師たちを移住させて作った漁師町。付近には運河や船だまり、住吉神社などがあり、どこかつかいかしい漁師町の風景に出会える。「名所江戸百景 佃住吉の祭」歌川広重(国立国会図書館)